

プログラム番号	06062
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

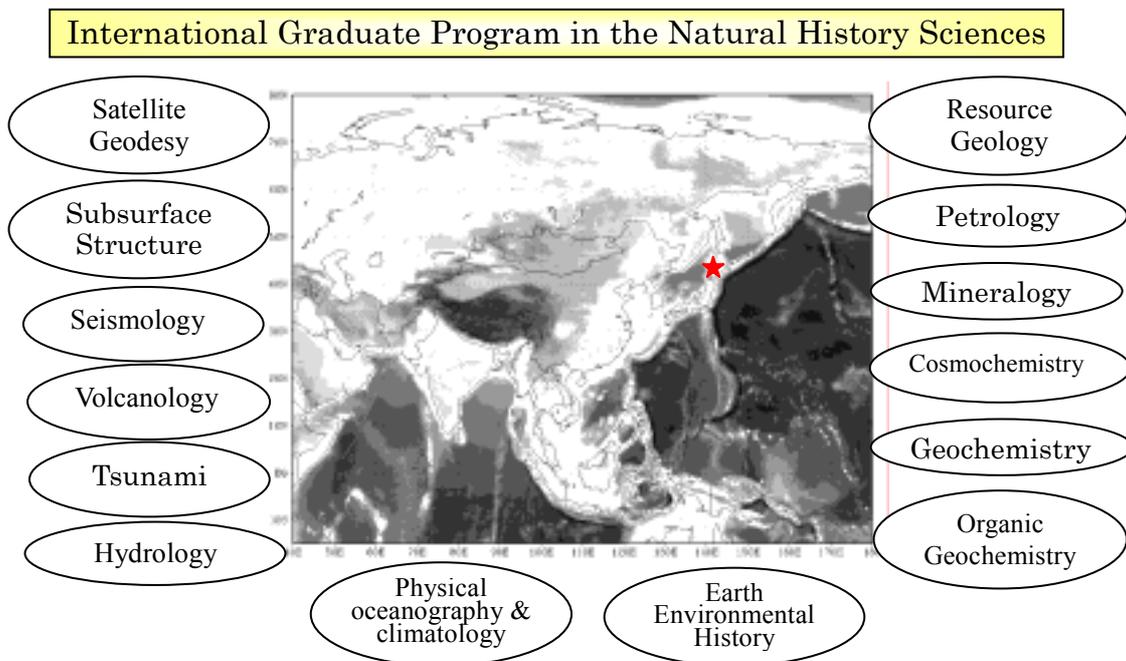
①大学名 研究科名	北海道大学大学院理学院		
②学長名	中村 睦男		
③所在地	〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	理学院・大学院教育係長	
	担当者氏名	吉井 洋	e-mailアドレス daigakuinkyou@mail.sci.hokudai.ac.jp
	電話・FAX番号	Tel: +81-11-706-3675, Fax: +81-11-706-3279	
⑤ホームページ URL	http://www.hokudai.ac.jp/en/admission/admissions.html http://www.sci.hokudai.ac.jp/grp/i-nhs/home/		
⑥大学院在学留学生数	563人(うち、国費留学生 214人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	自然史科学国際プログラム
②プログラムの形態	博士前期課程+博士後期課程(2+3年間)
③実施研究科・専攻	大学院理学院 自然史科学専攻
	(所在地) 札幌市北区北10条西8丁目
④連携大学・研究科・専攻名	
⑤受入れ学生数	6人(前期 2人, 後期 4人) (うち研究留学生優先配置人数: 前期 2人, 後期 2人) (うち日本人学生数: 前期 0人, 後期 0人)
⑥担当教員数	合計 20人(うち専任: 0人、兼任: 20人、非常勤: 0人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院理学院・大学院理学院長
	研究科長名 岡田 尚武

【3. プログラムの内容】

本「**自然史科学国際プログラム**」は、主としてアジア諸国より優秀な留学生を受け入れ、国際的な自然史科学者を養成することを目的とするものである。今日、人類が生存を続けるためにも、国に枠を越えて総合的にこの地球の自然を研究し、新たな自然観を築くことが求められている。この要請は、人口が増加し経済の発展が著しいアジアで特に強い。もちろん、アジア地域における自然史科学の発展は、全地球的な問題の正確な理解と解決につながり、アジアのみならず世界に貢献することになる。この自然史分野において本学は、例えば**21世紀COEプログラム「新・自然史科学創成」**(H15-H19)の遂行など、高いレベルの研究・教育を進めてきた。なお、21世紀COEプログラムとは、世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るために実施されている文部科学省の事業であり、数多くの提案の中から選び抜かれたプログラムが実行されているものである。我々は、本プログラムによる国費留学生を中心とした外国人留学生に対する教育によって、アジアを中心とする国際的な自然史科学研究の発展に貢献しようとしている。本プログラムには、**一定の国費留学生が優先配置されることとなっているが、私費留学生の応募も歓迎する。**



本プログラムは、修士（博士前期）課程(2年)と博士後期課程(3年)からなり、理学院・自然史科学専攻の中に置かれる。すなわち、同専攻の修了条件を満たすことで、修士および博士の学位を取得できる。

本プログラムで提供する授業は、そのほぼ全てを英語とすることを予定している。具体的には、修士（博士前期）課程の修了には、理学共通科目4単位、必修科目12単位を含み30単位以上と、修士論文の提出・発表が必要である。このうち、専門性が比較的薄い理学共通科目の4単位を除いて、全て英語で提供する予定である。これらの英語で提供する科目は、自然史科学専攻の科目から特に精選したものとなっている一方、自然史科学の基礎を学ぶために必要な幅広さも持っている。博士の学位の取得には、修士前期から通産して30単位の取得と、博

士論文の提出・発表が必要である。より詳しいカリキュラムの説明（英文）が

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/grp/i-nhs/home/>

にある。

本プログラムに参加する留学生は、応募時点では日本語能力を必要とはしないが、ある程度の日本語を身につけることが推奨される。これは、日本の文化・社会を理解し、日本で学ぶという機会をさらに有意義なものとする上で重用である。このため、本学留学生センター(http://www.isc.hokudai.ac.jp/www_ISC/isc-e.php)で行われている日本語コースを受講することを推奨する。

本プログラムが目的とする国際的な自然史科学者の養成とは、自ら研究計画を企画立案し、研究を遂行し、国際学術雑誌に論文を執筆する能力を持つ学生を育てることである。このためには、授業による知識の伝達に留まらず、優れた指導教員の助言を受けて研究を実行し、国際学会での発表および国際学術雑誌への論文投稿を行うという、一連の過程が重要である。本プログラムの参加教員は、優れた研究実績と豊富な国際学術雑誌の執筆経験を持ち、この面でも高度な指導が可能である。

本学では留学生が順調に日本の生活に慣れ、学習と研究に効果的に取り組むことを可能とするために、多様な支援を行っている。例えば、本学の学生・教員の協力を得て、チューター制度を設けている。チューターには指導教授から推薦を受けた留学生と専攻を同じくする大学院生が当たっており、留学生の実際上の手助けを行う。期間は渡日後最初の一年間である。また、北海道大学に設置されている留学生センターでは、留学生の受け入れから帰国までを一貫してフォローする留学生交流室と連携をとりながら、留学生の就学上の問題や、留学生それぞれの母国と風俗・習慣の異なる日本で生じるさまざまな生活上の問題等の相談に応じている。また本学では、総長を会長とする北海道大学外国人留学生後援会が、寄付金および篤志教員の会費によって運営されている。この後援会では、疾病等および不測の事故等について留学生に経済支援する他、外国人留学生の賃貸住宅入居に伴う連帯保証に係る支援も行っている。さらに、北海道大学国際婦人交流会による生活支援や（財）クラーク記念財団による奨学金助成等の支援も行われている。このように、北海道大学では、留学生に対して充実した様々な支援がなされている。

このように自然史科学国際プログラムと北海道大学は、国費留学生にかぎらず、私費留学生に対しても、自然史科学を学ぶ上で幅広い機会を提供している。興味のある海外の学生は、上記のホームページに示される本プログラムの参加教員に連絡を取られたい。